



“クラウドの属人化・コスト増から脱却！” 企業の成長を加速させるクラウドガバナンス構築 5つのステップ

東京エレクトロン デバイス株式会社

CNBU CN営業本部 アカウント第二営業部
加藤 諭

本日の内容

- 東京エレクトロンデバイスについて
- 企業におけるクラウドの利用状況
- クラウド利用のガイドライン制定に向けた5つのステップ
 - ・ ステップ1：ステークホルダーの確認 - “組織体制の確立”
 - ・ ステップ2：ガイドラインとして取り扱う範囲を定める
 - ・ ステップ3：ガバナンス統制の方針を定める
 - ・ ステップ4,5：ガイドラインの執筆 ~ 運用・共通基盤の整備
- 東京エレクトロンデバイスのご支援
- 展示会出展に関するご案内

東京エレクトロンデバイスについて

| | |
|---------|---|
| 会社名 | 東京エレクトロン デバイス株式会社 |
| 設立年月日 | 1986年3月3日 |
| 代表者 | 代表取締役社長 徳重 敦之 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 プライム市場 (証券コード：2760) |
| 資本金 | 24億9千5百万円 |
| 売上高 | 2,163億79百万円 (2025年3月期) |
| 従業員数 | 連結: 1,383名 (2025年3月31日現在) |
| 本社所在地 | 東京都渋谷区桜丘町 1 番 1 号 渋谷サクラステージ SHIBUYAタワー |
| 子会社 | 株式会社ファースト 東京エレクトロンデバイス 長崎 東京エレクトロンデバイス APAC 東京エレクトロンデバイス 上海 東京エレクトロンデバイス シンガポール 東京エレクトロンデバイス タイ 東京エレクトロンデバイス アメリカ |
| 関連会社 | Fidus Systems Inc. |

主な事業内容



半導体、ボード、ソフトウェア、電子部品の販売、設計・開発

ネットワーク、ストレージ、ソフトウェアの販売、保守サービス

当社の歩み

東京エレクトロンの電子部品事業・コンピュータネットワーク事業が分離・独立

半導体製造装置メーカー
東京エレクトロン(株)



2024年3月 出資比率33.82%

1998年
譲受け

半導体及び電子デバイス
(EC) 事業

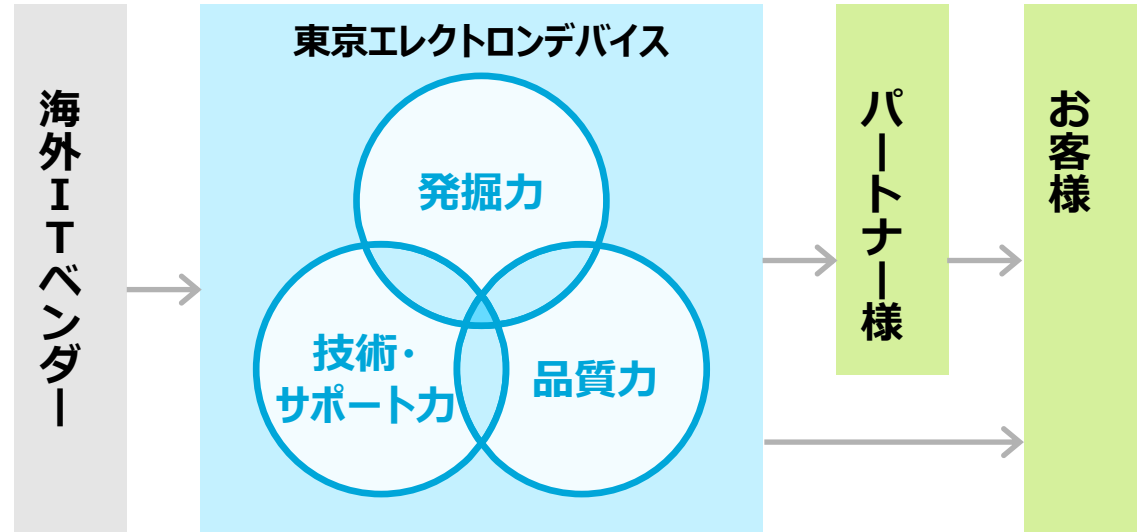
2006年
事業承継

コンピュータシステム関連
(CN) 事業

CN事業 (Computer Network事業)

■ 3つの力

- **発掘力**
最先端テクノロジー・ビジネスの発掘と開拓
- **技術・サポート力**
導入支援・アフターサービス
- **品質力**
受入検査・出荷検査



■ フォーカスエリア

セキュリティ



高度化するサイバー攻撃対策
やセキュリティ対策

ネットワーク



高速・高可用性ネットワーク環境を構築、
効率的な運用管理の支援

ストレージ



オンプレとクラウドをシームレスにつなぐ
データ保護・管理

AI



ビジネスを加速する
AIプラットフォーム/サービスを提案

クラウド



管理性・運用性・可用性が高く、
スケーラブルなクラウド環境の構築

Security Cloud

マルチクラウド

| クラウド | App配信&Sec | SSPM | CNAPP |
|------|---------------------------------------|------|-------|
| | Distributed Cloud Services | | |

| IaC | シークレット管理 | オブザーバービリティ | ペネトレーションテスト |
|---|----------|------------|------------------------|
| HashiCorp <small>HashiCorp Terraform</small> <small>HashiCorp Vault</small> | | | <small>ASV</small> |

クラウドアクセス/ゼロトラストソリューション

| エンドポイント | SSE/SASE | CASB/SWG |
|---------|----------|----------|
| | | |

| IDaaS | HSM | SIEM |
|-------|-----------------------------------|------|
| | <small>ENTRUST THALES</small> | |

社内アクセス/多層防御ネットワークソリューション

| Wi-Fi | VPN | WAF |
|-------|-----|------|
| | | |

| NDR | DNS/DHCP | Firewall |
|-----|----------|----------|
| | | |

Infrastructure

仮想化基盤ソリューション

| HCI | 3Tier |
|-----|-------|
| | |

ネットワークソリューション

| IP Clos | L2/L3スイッチ | ADC |
|---------|-----------|----------|
| | | |

AI/DLソリューション

| GPU | GPU System | Accelerator |
|-----|--|-------------|
| | <small>AI-READY INFRASTRUCTURE</small> | |

ファイルストレージソリューション

| Scale Out | Scale Up |
|-----------|----------|
| | |

バックアップソリューション

| クラウドバックアップ・リカバリ | |
|-----------------|--|
| | |

| 生成AI | AIオブザーバビリティ |
|-----------------------------|-------------|
| <small>生成AI</small> | |

その他の取り扱い製品については以下のWebよりご覧ください。

<https://cn.teldevice.co.jp/>

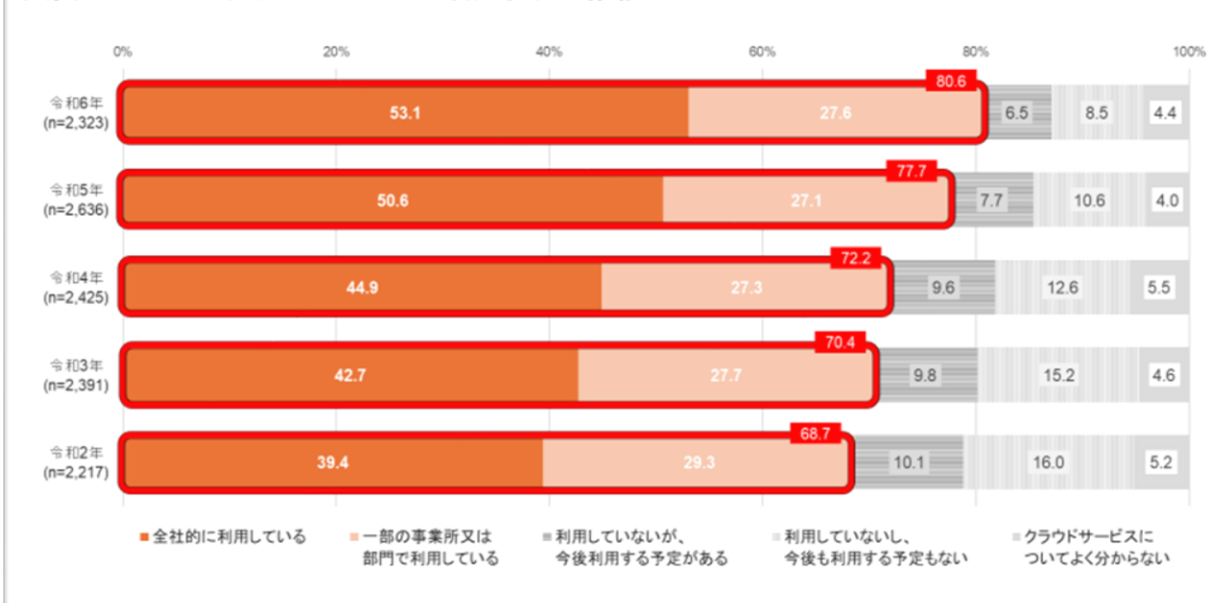
企業におけるクラウドサービスの利用状況

企業におけるクラウドサービスの利用状況

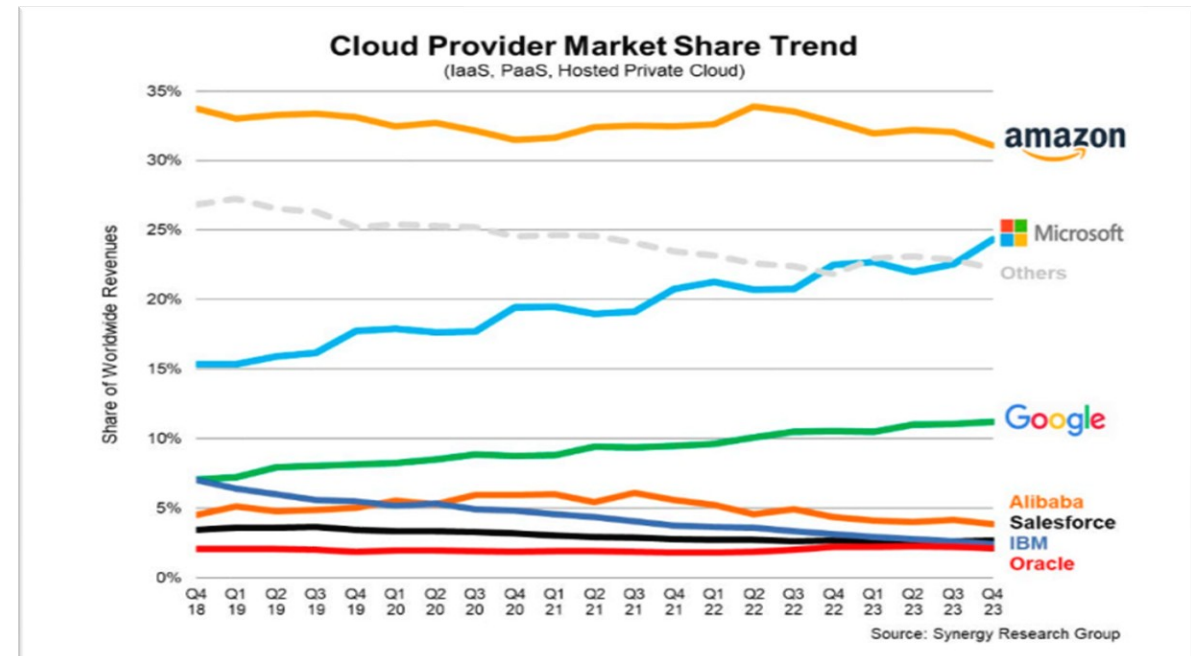
● クラウドサービスを利用している企業は**8割**を超えるまでに増加

- クラウドサービス導入への期待
 - ✓ 場所を選ばない利便性やシステムの拡張性
 - ✓ 社内リソースを加味したコスト効率の最適化
 - ✓ サービスの信頼性が高い、安定運用


図表4-1 クラウドサービスの利用状況の推移



出展：総務省「令和6年通信利用動向調査の結果」
https://www.soumu.go.jp/main_content/001011528.pdf



出展：総務省「令和6年版 情報通信白書」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/pdf/n2180000.pdf>



様々な部署がクラウドを
利用している
誰がどこまで管理するの…?

本当にコスト効率がいいのか
わからない…

情報漏えい・セキュリティ対策は
大丈夫?

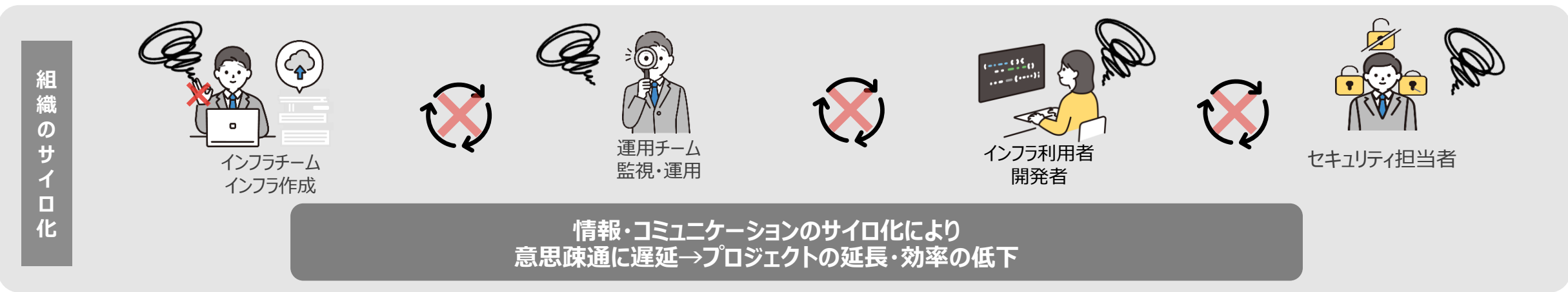


クラウドの利用がバラバラでガバナンスが取れていない

クラウド統制における課題

日本企業の多くではIT環境の2つのサイロ化に直面しております。

※サイロ化＝組織内の異なる部門やチームが情報共有を十分に行わず、各グループ・システムが閉鎖的になってしまう現象で部門間の協力が阻害される状態



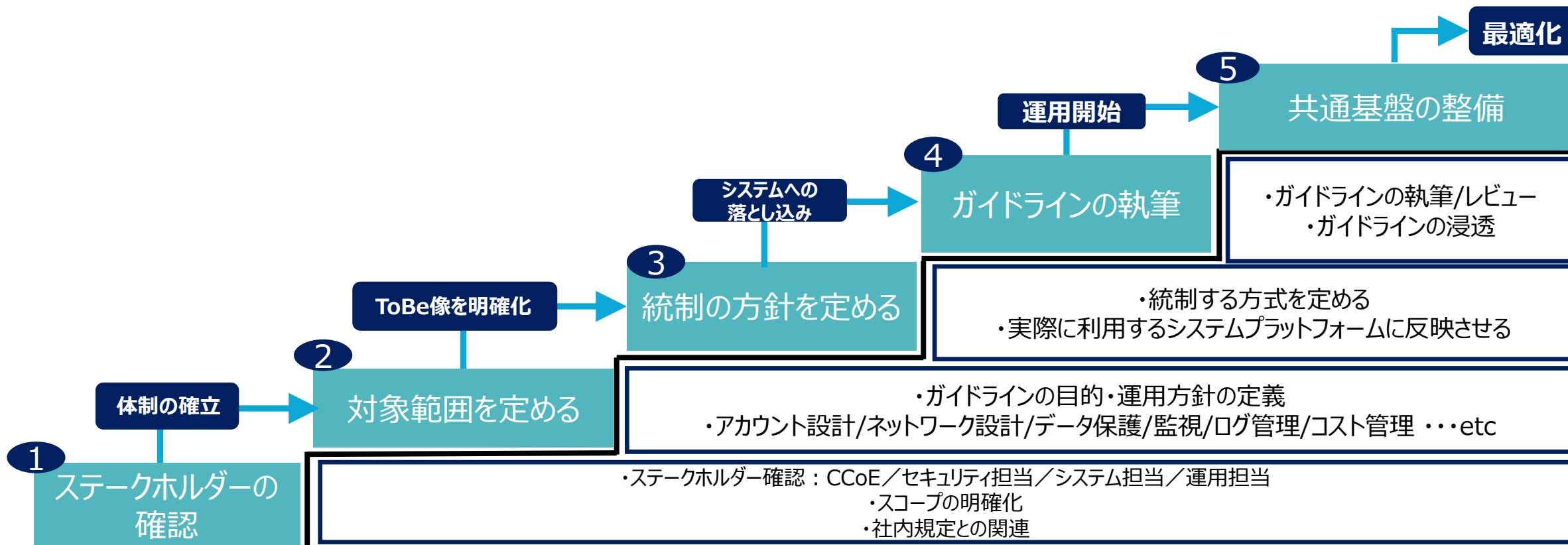
クラウド利用におけるガイドラインを制定してガバナンス統制することを推奨いたします!

クラウド利用のガイドライン制定に向けた5つのステップ

ガイドライン制定に向けた5つのステップ



参考文献：「AWS 利用標準化ガイドライン策定のベストプラクティス」
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/standardization-guideline-bestpractice-jp/>



Step1 : ステークホルダーの確認 - “組織体制の確立”

クラウドを統制するための組織設置形態

クラウドのガバナンス制定や、全社的に戦略的に進めるための組織はCCoE(クラウド活用推進組織)と呼ばれております。一般的に3つの形態が存在し、企業体質を考慮し選択されます。

①IT部門中心組織

既存のIT部門(情報システム部門など)がガバナンス制定組織としてのミッションを持つ

▼メリット

組織立ち上げが早い、ガバナンスを発揮しやすい

▼デメリット

運用重視になりがちで利用部門のニーズを反映しにくい傾向



②組織横断型組織

各チームよりメンバーを選出するケース



▼メリット

組織立ち上げが容易、関連部署を巻き込める

▼デメリット

既存業務で稼働確保しにくい、意思決定に時間がかかる



セキュリティチーム



インフラチーム



運用チーム

③独立型組織

▼メリット

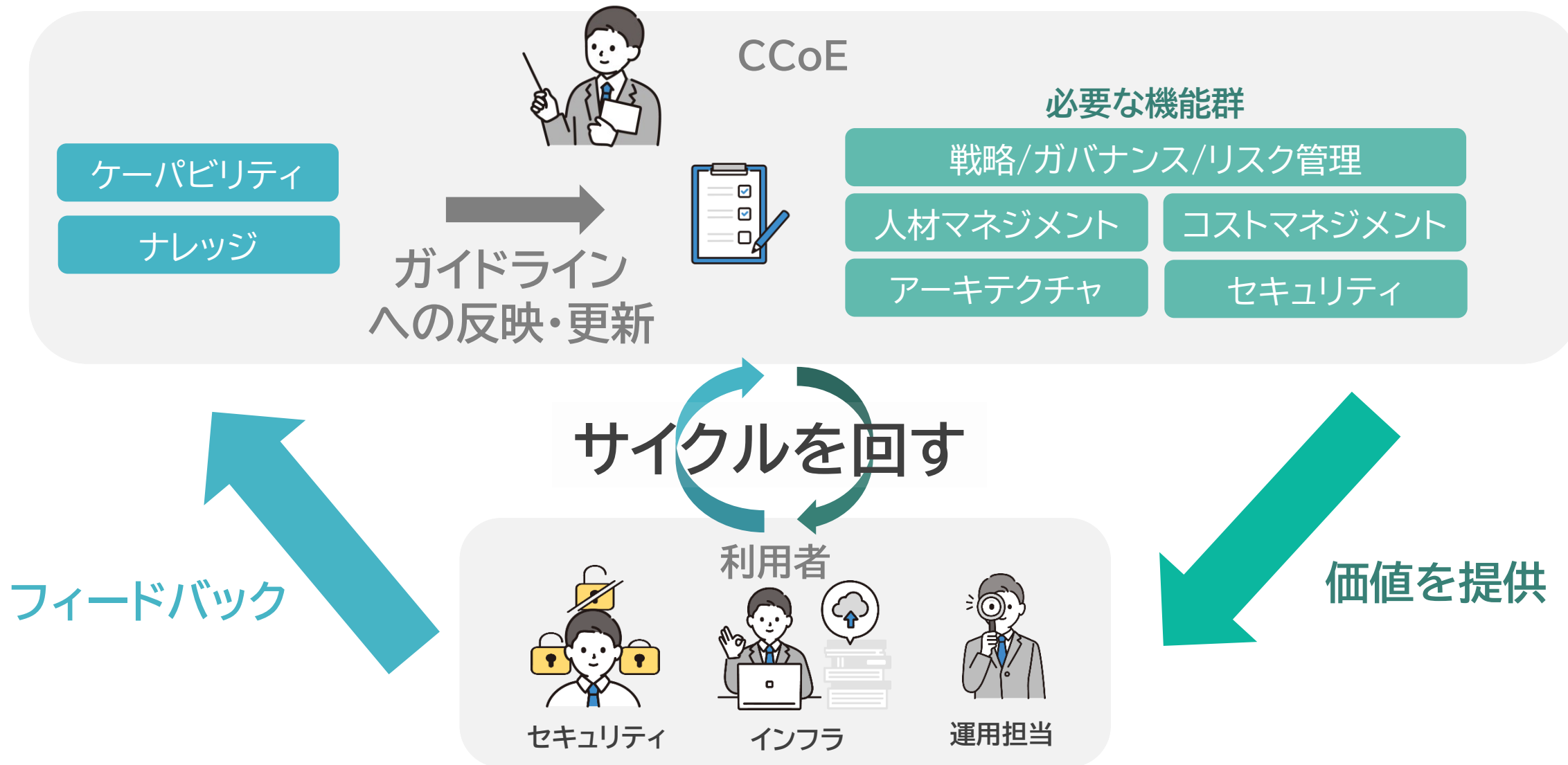
稼働調整しやすい
有識者のナレッジを活かしやすい

▼デメリット

組織立ち上げに時間がかかる
人材確保が難しい

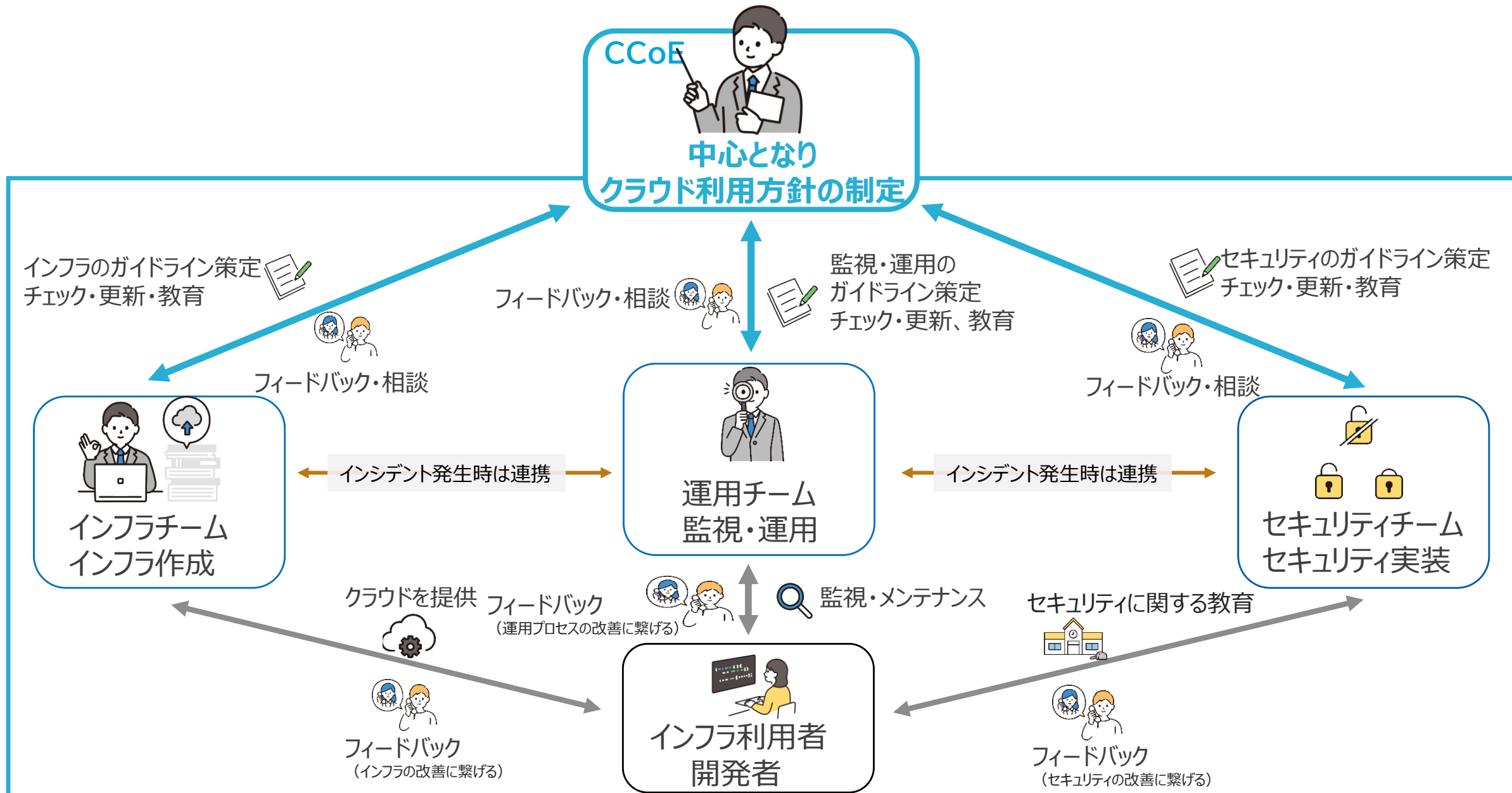


クラウド統制の基盤となる組織に必要な機能と役割



中心チームが一連のサイクルを回すことにより、適切な制定に繋がります。

クラウドを統制するための体制図



Step 2 : ガイドラインとして取り扱う範囲を定める

Step2 対象範囲を定める

- クラウドガイドライン制定の目的について再度確認

セキュリティリスクの 管理と対策

- 誤設定防止・アクセス権限管理
- データ漏えい・情報流出対策
- シャドーIT等の可視化

運用効率と コストの最適化

- 放置されたリソースの見直し
- サービスの乱立・重複利用の是正
- 運用の自動化による効率化

コンプライアンス対応

- 個人情報保護法や業界統制
- 企業内の監査対応
- 企業の信頼性維持

対象範囲

ネットワーク設計方針

サービスレベル

運用設計

組織構造・責任分界の整理

権限・アクセス管理

可用性

標準化

アカウント・管理設計

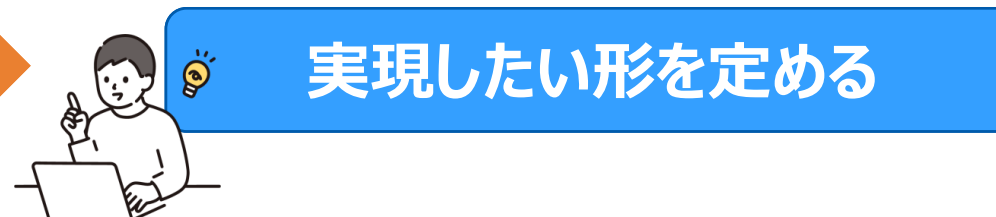
セキュリティ

監視設計

統制ルール・共通機能設計

対象範囲を定めてAsIsをヒアリングし、現状の課題を整理を行い、ToBe像を検討する

Step2 対象範囲を定める 課題とToBe像の例



アカウント・管理設計

ユーザーの課題（例）

複数のクラウドやSaaSごとにIDが分散し、一元管理ができず管理負荷が増加している

特権アカウントが適切に管理されておらず、不正アクセスのリスクがある

アカウント管理の運用が担当者に依存し、対応遅延やミスが発生しやすい状況

退職・移転後のアカウント削除や権限の見直しが遅れている

複数システムでログ管理が分散、統一的な監査対応に多大な工数がかかっている

全社的なセキュリティ意識が低く、パスワード管理が甘く情報漏えいのリスクがある

ToBe案

ID管理の一元化や自動化

特権アカウントの厳格管理と監査強化

標準化された運用プロセスの確立

不要アカウント・権限の迅速な削除

統合ログ管理と監査対応の効率化

継続的なセキュリティ教育の実施

Step 3 : ガバナンス統制の方針を定める

Step3 統制の方針を定める

✓ 統制の方針は大きく二つ

レギュレーション型方式

許可・禁止の行動を細かくルールとして定義
事前に承認された利用のみを許可する

ガードレール型方式

ポリシー違反につながるアクションを禁止(予防)、
あるいはポリシー違反を検出しアラートを提供(検出)する
ルールを環境に適用することで統制を実現する

参考文献：「AWS 利用標準化ガイドライン策定のベストプラクティス」
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/standardization-guideline-bestpractice-jp/>

Step2で作成したToBe像を実際にシステムに落とし込む

アカウント・管理設計

| ToBe | 実装（例） |
|-------------------|--|
| ID管理の一元化や自動化 | 一つの統合認証基盤を導入し、社内システムやクラウドサービスのユーザー情報を連携 |
| 特権アカウントの厳格管理と監査強化 | 特権アクセスを必要ときだけ付与する仕組みを設け、利用時には多要素認証を実施 |
| 標準化された運用プロセスの確立 | アカウント管理の申請から承認までのフローを自動化、作業状況の可視化と履歴管理を行うシステムを構築し、担当者依存を排除 |
| 不要アカウント・権限の迅速な削除 | 人事情報システムと連携し、異動や退職が発生した際に関連アカウントを自動で無効化または削除 |
| 統合ログ管理と監査対応の効率化 | 各種システムからログを集約し、一元的に分析・監視できる環境を整備 |
| 継続的なセキュリティ教育の実施 | オンデマンドで受講可能なセキュリティ教育プラットフォームを用意し、定期的なトレーニングを実施 |

Step 4 , 5 : ガイドラインの執筆 ~ 運用・共通基盤の整備

Step4,5

Step4 ガイドラインの運用を定める

- 策定した方針をガイドラインに記載していく
- 社内に説明会などを開いてガイドラインを公開・浸透させる
- ガイドラインに基づいて実際に運用していただく



Step5 共通基盤を整備する

- 運用していきフィードバックを頂きガイドラインに反映させて共通基盤を修正・改善していく
 - 共通基盤アカウント
 - アカウント横断共通機能
 - 環境共通運用手順



ガイドライン制定5つのステップ

Step1

位置づけ・目的を
明確にする

ステークホルダーを確認
スコープを明確にする
社内規定との関連

ステークホルダーの確認

1. CCoE

- 活用推進運営の中心
 - 独立型組織
 - 組織横断型組織
 - IT部門中心組織

2. セキュリティ

- クラウド環境におけるセキュリティの維持

3. システム担当

4. 運用

スコープの明確化

- 目的、適用範囲、対象読者、含める内容、利用方法

社内規定との関連

- 社内セキュリティ規定、運用規定、ネットワーク規定と位置づけの明確化

Step2

対象範囲を定める

ガイドラインとして
取り扱う範囲を定める

標準化ガイドライン

- ガイドラインの目的・対象範囲や運用方針など定義

アカウント設計

- アカウント構成
- アカウント展開方法

ネットワーク設計

- プライベートNW設定、オンプレ接続

アイデンティティアクセス管理

- 認証認可、権限設計方針

発見的統制（監視）

インフラストラクチャ保護

データ保護

ログ管理

コスト管理..etc

Step3

統制の方針を定める

統制の考えた方針策定

統制方針の策定

- プラットフォームにおけるルールとポリシーを確立

利用クラウドサービスの ポリシー確認

- ポリシー違反につながるアクションを禁止する（予防）

管理グループ機能

- 多数のサブスクリプションがある場合に

Step4

ガイドラインの運用を
定める

ガイドラインの執筆・レビュー
展開・運用

執筆 CCoEメンバー

- 検討不足、調整不足による残項目が残っていないこと
- 「必須」「推奨」「任意」明確化、etc

レビュー

- セキュリティ、運用担当
- ドキュメントの整合性がとれていること、役割の明確化、責任範囲について合意性

承認

- クラウドを推進する部門の責任者

展開・運用

- ガイドラインの公開、説明会など浸透させる
- ガイドラインの運用ルール設定

Step5

共通基盤を整備する

共通基盤の整備

共通基盤の整備

- ガイドラインで定めた提供方針に則り、共通基盤の整備を進める

共通基盤アカウント

- 管理アカウント
- セキュリティ監視アカウント

アカウント横断共通機能

- プライベートNW間接続
- 外部接続
 - オンプレミス接続
 - インターネット接続
 - セキュリティ監視

東京エレクトロンデバイスでのご支援

ガイドライン制定に向けたセキュリティ対策やガバナンスのTo Be作成支援

ご支援内容

お客様環境の現状理解

- 課題、要件、前提条件の整理
- 優先度づけと文書化



ご利用のクラウドサービスを用いた To Be像の提案

- 概要設計と文書化
- As Is、To Beのギャップ整理



ロードマップの作製

- マイルストーンとアクションプランの整理
- 役割分担の整理



- ✓ ご要望に合わせた柔軟な対応
- ✓ コミュニケーションツールを用いたQA支援等も可能

クラウド環境利用における最適なガバナンス統制に向けてお客様と伴走いたします!

長年培ったITインフラへの理解

ネットワーク



高速・高可用性ネットワーク環境を構築、
効率的な運用管理の支援

サーバー/ストレージ



オンプレ・ハイブリッド
環境に適した最適な設計・提案

セキュリティ



高度化するサイバー攻撃対策
やセキュリティ対策



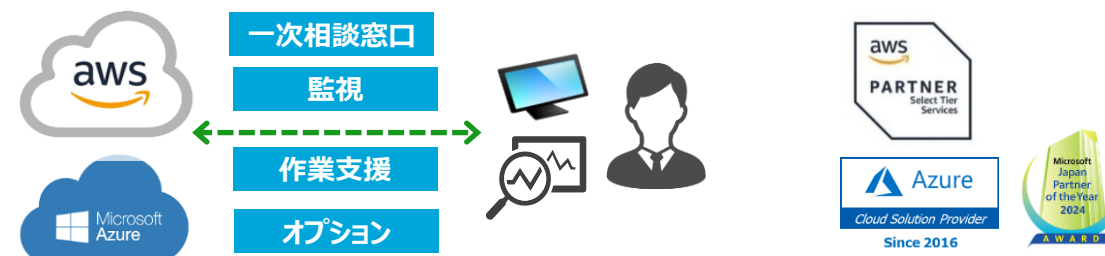
- **3つの力**
 - **発掘力**
最先端テクノロジー・ビジネスの発掘と開拓
 - **技術・サポート力**
導入支援・アフターサービス
 - **品質力**
受入/出荷検査・サポートポータル

クラウドインテグレーションサービス実績

要件定義から導入・運用支援まで

| 項目 | 概要 (例) |
|----------|--|
| 要件定義 | お客様課題のヒアリング・解決に向けた設計・構築および構成検討・要件整理 |
| ネットワーク設定 | AWSのVPC/AzureのVirtual Network等やSubnet等の仮想ネットワークを設定 |
| 仮想FW設定 | リソースへの内部トラフィック・外部トラフィックを制御 |
| 各種構築 | 仮想サーバをはじめとした、必要リソースの作成と設定 |
| バックアップ設定 | 仮想サーバのイメージバックアップの設定 |
| 監視設定 | モニタリングツールの設定・仮想サーバへの監視エージェントの導入 |
| 運用設計 | 監視の上、リソース変更が必要となった場合の対応・エスカレーション先等の設計 |
| 成果物作成 | 初期構築・設計時のパラメータ情報、簡易構成図、監視設定、運用設計等 |

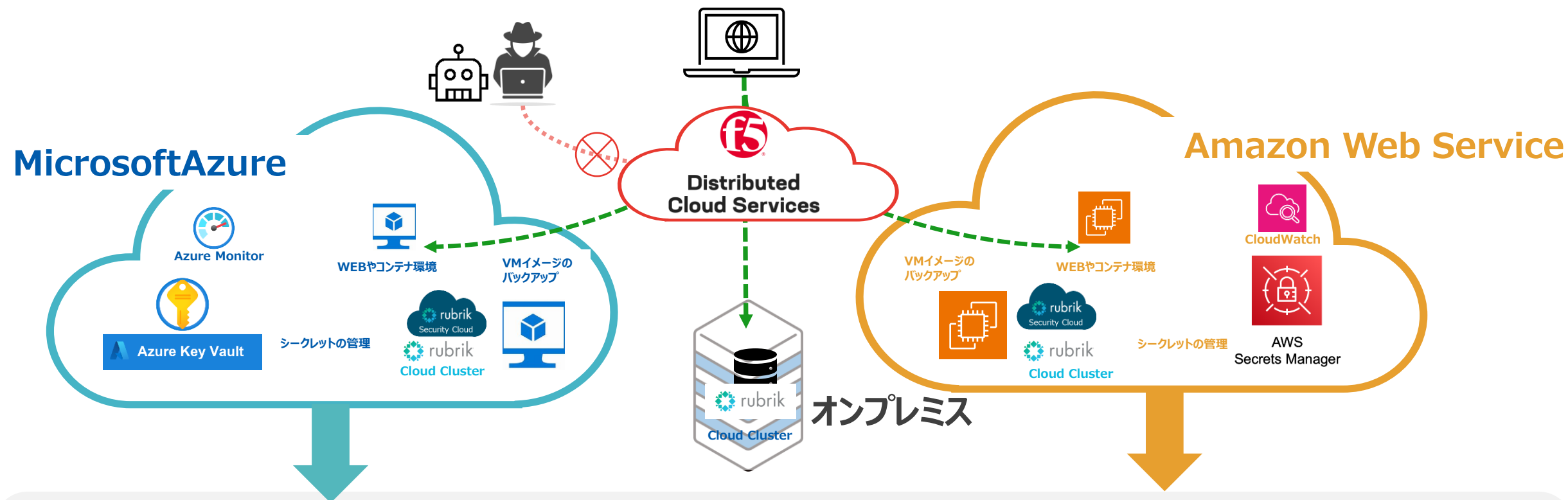
導入後のクラウド運用支援も合わせてご提供



- システム全体ワンストップサポートで一次受け窓口対応
- コスト・リソースの最適化支援

クラウドネイティブにとらわれない統制についてもご提案

ハイブリッドクラウド環境における課題解決の統合ソリューションご提案



マルチクラウド環境における統制ソリューション

| | | | | |
|----------------------------------|---|---|--|---|
| <p>マルチクラウド環境のセキュリティ 統合管理</p> | <p>IaC/シークレット管理</p> <p>コード化/シークレット集中管理 運用の自動化</p> | <p>WAAP</p> <p>Webセキュリティの 統合ソリューション</p> | <p>データ保護バックアップ</p> <p>ランサムウェア耐性の強い マルチクラウド対応バックアップ</p> | <p>オブザーバービリティ</p> <p>監視+把握の 統合可観測プラットフォーム</p> |
|----------------------------------|---|---|--|---|

展示会出展に関するご案内

日経 XTECH neXt 東京 2025

変革の最前線がわかるAI/DXの総合展 日経クロステック NEXT 2025

2025年10月16日（木）～17日（金） 東京国際フォーラム ホールE

ブース出展



マルチクラウド時代の最先端セキュリティソリューション



セッション講演

タイトル

クラウド活用でDXが止まる? セキュリティ運用の落とし穴

講演日時

2025/10/17（金） 13:30~14:00

会場

会場5



東京エレクトロン デバイス株式会社

Connect Beyond

共に創る 新たな価値を



東京エレクトロン デバイス